

災害時の



連絡手段は大丈夫？



地震、台風等により災害が発生すると、家族などの関係者安否確認のため一斉に電話をかけるため、通信が集中し混雑（輻そう）が発生し、電話がつながりにくくなります。

救助や緊急連絡など、重要通信確保のために

- 災害が発生した直後は、不要不急の電話をかけない。



電話はしばらく時間をおいてからかけましょう。用件は手短かに済ませる心掛けが大切です。

- 安否確認は、「災害用伝言ダイヤル（171）サービス」「災害用伝言板サービス」や通信の混雑の影響を受けにくい「携帯電話などの電子メール」を利用する。

日頃からいざという時に備えて、家族・知人同士で安否確認のための連絡方法を決めておきましょう。

大規模災害が発生した場合に被災地の方々と電話・インターネットで安否確認をするときの具体的なポイントは、裏面を御覧ください。



■『災害用伝言ダイヤル(171)』とは？

災害時に限定して利用可能な安否等の情報を音声により伝達するボイスメールです。

- ①避難等により自宅の電話に応答できない方々への連絡が、可能。
- ②停電、被災により自宅の電話が使えない場合の連絡が、可能。
- ③呼出しても応答のない電話が減少するなど、安否情報の伝達性向上が図れます。



■『災害用伝言板サービス』とは？

各社の携帯電話のwebメニューから、安否情報を登録することができるサービスです。

登録されたメッセージは、インターネットを通じて各社の携帯電話、PHSやパソコン等から確認することができます。

『災害用伝言ダイヤル(171)』『災害用伝言板サービス』両サービスともに、普段から災害発生を想定し、いざという時にスムーズに操作できるよう操作方法を確認しておきましょう。

固定電話の利用ポイント

- 地震により固定電話の受話器がはずれた場合、電話が使用状態になるので、状態を確認し受話器を元の状態に戻しておく。
- 家族や知人の安否確認には、『災害用伝言ダイヤル(171)』のサービスを利用する。**※携帯電話・PHSからも利用できます。**
- 公衆電話は、比較的つながりやすい電話となっているので、事前に設置場所を確認しておき、緊急の場合に利用する。



携帯電話・PHSの利用ポイント

- 『災害用伝言ダイヤル(171)』のサービスを利用する他、携帯電話の場合は、各社の『災害用伝言板サービス』を利用する。



インターネットの利用ポイント

- 常時接続のインターネット(ADSL、FTTH、CATVインターネット等)を利用している場合は、電話の輻そうに巻き込まれることが少ないので、電子メール等により情報を伝えられる可能性が高い。
(ダイヤルアップでのインターネット利用は、輻そうの影響を受けます。)
- IP電話を利用している場合は、110番/119番への連絡ができないことがあるので事前に説明書等で確認しておく。



停電時のポイント

- 停電が発生した場合に、自宅のコードレス電話やFAX、IP電話が使えるか、事前に説明書等で確認しておく。
- 携帯電話などは停電時のバッテリー切れ対応策として、予備電池パックや自動車シガーライターからの充電アダプタ等を用意しておく。



メールのポイント

- 電子メールには写真、動画等のデータ量の多いものは添付しない。
- 重要メールを受信した場合は、必ず受信した旨の短い返信を送る。